

# 緊急情報

## 台風 21 号接近に伴う農作物の管理対策について

平成 30 年 9 月 3 日

胎内市農業協同組合

台風 21 号が接近しています。新潟地方気象台の情報によると 9 月 4 日から 5 日にかけて接近し、大雨や暴風となる見込みです。今後の台風情報に注意して、事前・事後対策により被害の軽減に努めてください。なお、台風通過中の悪天候時は、**安全確保のためほ場や水路等の見回りは行わないようにしてください。**

### 1 水 稲 ～ 強風・フェーンによる倒伏・胴割粒発生に注意！ ～

#### 【事前対策】

- (1) 収穫適期を迎えたほ場は、可能な限り収穫を行いましょう。
- (2) 大雨に備えて、排水路・水尻の点検・整備を行い、排水対策を徹底しましょう。

#### 【事後対策】

- (1) 大雨により冠水した場合は、速やかに排水するように努めましょう。
- (2) 収穫時の籾水分が 28% 以上と高い場合は、乾燥時の送風温度を 40℃ 以下とし、品質及び食味低下を防止しましょう。
- (3) 強風・フェーンに遭遇した籾は、立毛中胴割れの発生が懸念されることから、刈り遅れに注意するとともに、乾燥時の送風温度を低く設定（毎時乾燥速度 0.5% 以下）して胴割粒の発生防止に努めましょう。
- (4) 乾燥機への張り込み籾水分が 18% 程度まで低下している場合は、張り込み後に軽めに通風循環した後、夜間まで半日程度貯留して水分ムラを解消させてから加熱乾燥しましょう。乾燥機に 2 段乾燥機能や休止乾燥機能が備わっている場合は、それらを活用しましょう。
- (5) 倒伏が著しいほ場で品質低下が懸念される場合は、無被害ほ場と区別して収穫・乾燥・調整を行いましょう。

### 2 大 豆 ～ ほ場の冠水と茎・葉損傷による成熟期の早まりに注意！ ～

#### 【事前対策】

- (1) 排水路及びほ場内の排水溝を事前に点検・整備しましょう。また、暗渠栓を開けて排水対策を徹底しましょう。

#### 【事後対策】

- (1) 冠水した場合は、湿害による充実不良や枯死を防止するため速やかな排水に努めましょう。
- (2) 強風・フェーンにより茎葉の損傷が著しい場合は、収穫時期が早まることが想定されます。適期収穫に向けて早めの準備を行いましょう。

### 3 園芸関係

#### 1 全般

##### 【事前対策】

- (1) 収穫期にある園芸作物（なし、ぶどう、ねぎ等）は、可能な限り収穫する。
- (2) 樹園地や施設の防風網、支柱・支線及び誘引結束、ほ場のマルチ等を点検・補強する。
- (3) 施設（ハウス、雨よけなど）のビニール類を強風から保護するため、マイカー線の点検・補強、らせん杭等の固定資材の確認を行うとともに、換気扇や天窓が強風で飛ばされないよう補強する。
- (4) フェーン現象が予想される場合は、ほ場やポット・トレイの乾燥及び作物の脱水症状を防ぐため、朝夕の涼しい時間帯にかん水する。特に砂丘地では、飛砂防止も兼ねて風が強くなる前からスプリンクラー等で十分にかん水する。
- (5) 台風通過中は、ハウス被覆資材のばたつきを防ぐため、施設を密封し換気扇を稼働させる。
- (6) 大雨が予想される場合は、長時間の滞水を避けるため、ほ場内及び周辺の溝切り等排水対策を徹底する。

##### 【事後対策】

- (1) フェーン現象の影響で脱水症状が見られる作物は、速やかにかん水する。
- (2) 倒伏した作物で回復が見込まれるものは速やかに引き起こし、土寄せ、かん水する。
- (3) 施設、支柱・支線、誘引結束等を点検し、破損箇所は速やかに補修する。
- (4) ほ場内の停滞水は根腐れ等の原因となるため、速やかに排水する。
- (5) 強風で傷んだ茎葉は病気が感染するおそれがあるため除去し、適切な薬剤散布により病害の発生防止に努める。
- (6) 枝・葉ずれ等の被害が発生したほ場では、収穫物の選果・選別に留意する。

#### 2 野菜

##### 【事前対策】

- (1) 強風等が予想される場合、ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、ねぎ等では、出蕾期または結球期に入っている場合を除き、倒伏や茎折れを防ぐため、土寄せを行う。
- (2) 露地で育苗中の品目は、葉の損傷を防ぐため、べたがけ資材で被覆する。

##### 【事後対策】

- (1) ねぎが倒伏した場合は、曲がり防止するため、早急に起こして土寄せする。えだまめ、なす、アスパラガス等が倒伏した場合は、速やかに支柱に誘引する。
- (2) 強風雨に遭遇した収穫中の果菜類は、草勢低下を防ぐため、早めに収穫・摘果する。
- (3) 施設野菜等で施設内に浸水した場合は、換気を十分行い、土壌の乾燥を図る。また、マルチ内が過湿状態の場合は、一時的にマルチの裾をめくり、乾燥を促す。特に果菜類では、根傷みによる草勢低下を防ぐため、遮光資材を利用して急激な温度上昇を防止するとともに、摘果により着果負担を軽減する。
- (4) 茎葉が損傷した場合は、薬剤散布のほか、草勢回復のため、液肥の葉面散布を行う。

### 3 果 樹

#### 【事前対策】

- (1) 防風網・防風林等の点検・補強を行い強風に備える。
- (2) 日本なし・ぶどう・いちじくなど、収穫可能な果実はできるだけ収穫する。
- (3) かきなどの立木の場合は、倒木や枝折れを防ぐため、補強用の支柱や枝吊りを徹底し、ロープなどでしっかり固定する。また、棚栽培の樹種（特に西洋なしルレクチェ）ではアンカー等設置して、棚の揺れによる落果を防ぐ。
- (4) 大雨が予想される場合は、暗きょを点検するとともに、園内に明きょを設置して排水対策を徹底する。

#### 【事後対策】

- (1) ハウス、棚、防鳥網等の破損箇所は、速やかに補修及び掛け直しする。
- (2) 落果した果実は放置せず、園外に持ち出し適正に処分する。
- (3) 枝が折損した場合は、切り直して保護剤を塗布する。
- (4) 主枝分岐部等の太枝が裂開した場合は、被害程度に応じて切除するか、ボルト等で接合し保護剤を塗布する。
- (5) 倒伏した樹を引き起こす場合、残った根を痛めないよう慎重に起こす。また、断根の程度に応じて地上部を切りつめる。
- (6) 強風や潮風により落葉が著しい場合、収穫まで1か月以上ある樹種（品種）の品質低下を防ぐため、落葉程度に応じて障害果を優先して摘果し、適正な葉果比を維持する。
- (7) 枝葉の損傷により病害の発生が懸念されるので、臨時防除を実施する。
- (8) 大雨により園内が滞水した場合は、ポンプ排水等により、速やかな排水に努める。
- (9) スレ果・傷果等の選別には十分留意し、選果基準は厳守するとともに、JA等の指示に従う。

### 4 花 き

#### 【事前対策】

- (1) 強風が予想される場合は、露地切り花では茎葉のスレを防止するため、必要に応じてネットを下げる。また、雨よけ施設ではビニールや遮光資材を外しておく。

#### 【事後対策】

- (1) 倒伏した株は、茎や花穂の曲がり防止するため、風が止んだら早急に立て直す。
- (2) 切り花、鉢ものでは、早急に折損した茎葉の整理を行い、適切な薬剤散布等により病害の発生防止に努める。
- (3) 冠水・浸水により茎葉が汚れた場合は、ほ場の排水に努めるとともに、可能な限り速やかに散水等で汚れを落とす。
- (4) 施設が被災した場合は、速やかに作動点検を行う。特に、キク等の栽培に係る電照・補光関連装備（電球、タイマー等）は、作動点検及び修理を急ぐ。

## 4 畜産関係

### 【事前対策】

#### 1 全般

- (1) 畜舎内送風や搾乳、生乳冷却等に支障を来さないよう、自家発電機の点検を含め、停電時の対応を確認する。
- (2) 気温上昇（フェーン現象の発生）も予想されるので、家畜の熱射病等の疾病を防ぐため、密飼いを避け、送風機、細霧システム等の暑熱対策を徹底する。
- (3) 給餌による体温上昇と気温上昇が重ならないように、飼料給与の多回数化や朝・晩の涼しい時間帯での給餌に努め、家畜が新鮮な水を常に十分飲めるように注意する。

#### 2 暴風対策

- (1) 畜舎の破損を防ぐため屋根、外壁に加え、窓や扉等を補強する。特にパイプハウスで作られた簡易な畜舎や飼料庫は、骨組みごと飛ばされないように、前後扉を中心に開口部の補強を確実に行う。
- (2) 畜舎周辺に配置する仮設物品や作業機械は飛散、損傷しないよう、農舎に格納する。
- (3) 畜舎や堆肥舎に保管する水分調整資材（モミガラ、オガクズ等）には、覆いを施し、ウエイトを乗せるなど飛散防止に努める。

#### 3 大雨が予想される場合

- (1) 畜舎に雨水が浸入し、飼料等が濡れて変敗しないよう、保管場所を確認する。
- (2) 浸水被害が懸念される場合は、家畜の避難等の適切な処置を行う。
- (3) ほ場で保管する調整済みの牧草ラップサイレージ等は、ほ場外に搬出する。
- (4) 飼料作物栽培用としてほ場に仮置きする堆肥は、シートで覆いウエイトを乗せる。

### 【事後対策】

#### 1 全般

- (1) 停電発生時は、自家発電又は送電回復で速やかに通電できるよう、畜舎内機器の異常を確認する。
- (2) 家畜に急激な体調の変化を認めた場合は、速やかに獣医師の診療を受ける。
- (3) 家畜の死亡被害を生じた場合は、必要な手続きを行い、速やかに化製場に搬入する。

#### 2 暴風被害への対応

- (1) 強風が収まるまで待って、畜舎等内外の破損を確認し補修を行う。
- (2) 栽培中の飼料作物で倒伏の場合は、被害の大きな場所からすみやかに収穫する。

#### 3 浸水等への対応

- (1) 畜舎に浸水した場合はすみやかな排水に努め、退水に併せて泥などの撤去と畜舎、設備器具の水洗、乾燥、消毒を行う。特に、搾乳機器は入念に点検を行い、洗浄、消毒等の衛生対策を徹底する。
- (2) 浸水等のあったほ場はすみやかな排水に努め、未収穫の飼料作物が残存し、泥水で汚染した場合は利用せずに、掃除刈りと耕耘作業を的確に行う。
- (3) 浸水と併せ泥等が堆積した永年牧草のほ場では、次年度以降の生産性確保に向け、草地更新作業を行う。